

2021年度事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

2013年（平成25年）4月1日「非営利型の一般社団法人」への移行認可を内閣府より得て新法人として発足、8年が経過しました。その間定款第5条に規定される諸事業を実施して来ております。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大の状況の中で、2021年度も4月25日から緊急事態宣言が発出され、9月30日の終了宣言まで延長と地域拡大が続き、年が変わってからもまん延防止対策等重点対策が発出されました。各競技会やイベントについて、その開催是非を理事会にて都度検討しましたが、やむを得ず殆どの開催を中止せざるを得ませんでした。第31回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京2021）を10月24日に、第8回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウスカップ大阪2021）を11月7日に開催することが出来ました。

これらの両レガッタは、新型コロナウイルス感染防止対策を公益財団法人日本セーリング連盟、スポーツ庁等の指針に沿って実施し、無事に終了出来ました。

これらの対応を検討する理事会、委員会も実際の開催が出来ずに、インターネット利用のZoom会議による開催で理事、監事、委員の皆さんと意見を交換して進めて来ました。幸いに6月26日には定時総会を対面による実開催が出来ました。

2020年9月1日に、指導育成委員会から公認指導員認定制度に関して、2023年4月1日付での廃止についての提案が提出されました。

連盟の設立目的達成のための事業の一つ、ジュニアヨットクラブの指導者の養成に寄与する公認指導員制度の現状についての疑問が議論され、公認指導員制度の意義、今後の運営等については、新型コロナ感染状況の終息を見ながら、実際に会議を開催する等少し時間をかけて指導育成委員会で問題点の整理と解決策を検討し改めて理事会に年度内に提案する事とし、当面は現状継続とする事となりました。

指導育成委員会と普及渉外委員会との活動内容から判断して、一体化することを検討し次年度からは、普及・育成委員会として普及活動とクラブの指導者育成を目的に活動する新組織とすることになりました。

(事業活動)

事業1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業
(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

1. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2021（若洲大会）

当初の開催が1年延期となった東京オリンピック・パラリンピックが、7月23日から9月5日まで開催されることから、従来開催していた8月初めの開催は難しい状況であることとなりました。昨年計画したゴールデンウィーク期間中の開催も海外選手の参加が難しいとの判断から、新型コロナウイルス感染状況の収束により海外選手の来日が可能となることを期待して、9月18（土）～20日（月・祝）の期間に、東京都立若洲

海浜公園ヨット訓練所を会場に、一般社団法人東京都ヨット連盟の協力を頂いて開催を計画、準備を進めました。然しながら、新型コロナウイルス感染拡大状況が続き歯止めがかからず、

- ① 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の緊急事態宣言が9月12日まで延期されたこと、
- ② 新たに茨城県、栃木県、群馬県、静岡県等近隣各県に発令されたこと、
- ③ 会場の東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所の指定管理者及び運営役員の協力をお願いする一般社団法人東京都セーリング連盟の協力が新型コロナウイルス感染拡大状況から得られないこと、

等の理由から、地元自治体の江東区役所の指導もあり、8月18日開催の理事会で、今年の開催は中止と決定しました。

2. 第31回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ（ミキハウスカップ東京2021）

当初の予定の10月24日（日）での開催可能であること、但し国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2021中止の代替行事として提案した前日23日（土）との2日間の拡大開催は出来ないことを会場の東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所の指定管理者NPO法人マリンプレイス東京と一般社団法人東京都セーリング連盟と確認をして、10月24日（日）の1日だけでの開催をしました。

三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共同主催で、無事開催しました。

開催方法については、密を避けるため親善パーティーの中止、ペットボトル飲料配布の中止、受付、出艇申告・帰着申告、抗議等を全てLINEオープンチャットで行う事、その他開催日2週間前からの体温チェック、健康状態チェックシートの提出、マスク着用、手指消毒等の感染防止対策を実施しての開催で、無事終了出来て、その後も感染の報告はありませんでした。

参加申し込みは、前年度から増加し13クラブ、OP級初級者30名、OP級上級者40名、レーザー4.74名、国際420級 6艇の選手合計87名と前年の3倍近くのエントリーがあり、指導者・保護者113名に、運営役員50名の総勢248名の参加の大会となりました。

3. 第8回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウスカップ大阪2021）

当初9月5日（日）開催予定でしたが、大阪府の緊急事態宣言が9月12日までの期限で発出され、県境を越える移動自粛要請がされたので、開催日を延期をして、11月7日（日）に、大阪府貝塚市の二色ハーバーで、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社、株式会社フォーチュンの協賛を頂いて、大阪府ヨットセーリング連盟との共同主催にて無事開催をしました。

4. 第9回ジュニアヨットクラブジャンボリー

東京オリンピック・パラリンピックが7月24日から9月6日に開催される予定から、ゴールデンウィークに国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2021を開催する計画としたために（実際にはその後日程を延期）、今年は8月13日（金）～15日（日）の2泊3日の日程で、茨城県行方市のご協力を頂いて、宿泊は前回と同じ茨城県立白浜少年自然の家を利用、活動場所は天王崎公園を会場に、茨城県セーリング連盟と、天王崎公園を活動拠点としている麻生ヨットクラブの協力を頂き、3者の共同主催で開催を企画、準備しました。参加申し込み人数が選手11名、保護者等6名合計17名と開催予定の基準30名に満たないことと、新型コロナウイルス感染拡大状況を勘案して、宿泊を伴うイベントは好ましくないことから中止せざるを得ませんでした。

事業2. 諸外国との交流・親善に関する事業

(定款第5条 第1項 第4号)

1. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っていますが、今年は国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2021が開催中止となったので、招聘事業も中止としました。

2. 海外セーリング研修派遣事業

(1) 10月開催の「第31回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウスカップ東京2021)」の国内クラブ対抗レースの優勝クラブ、江の島ヨットクラブジュニアに海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞が授与されました。

11月開催の第8回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ (ミキハウスカップ大阪2021)の国内対抗レースの優勝クラブ、B&G高松海洋クラブに海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞が授与されました。本年度は、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2021が開催中止となったので、海外セーリング研修参加者は上記の2名となりました。

昨年2020年の第30回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウスカップ東京2020) 優勝クラブで特別賞を授与されたが昨年度の海外セーリング研修を実施出来なかった葉山町セーリング協会の1名を加えての3名とそれぞれの同じクラブの自己負担参加者各1名の6名で研修を実施することになりました。

2022年3月に研修実施を企画しましたが、年が変わっても新型コロナウイルス感染拡大の勢いは収まらず、まん延防止等重点対策も発令されて、海外渡航も厳しい条件がある事と受け入れ側候補のオーストラリア、ニュージーランド、シンガポールも日本からの入国禁止或いは2週間の隔離等の厳しい条件が付けられたので、参加者の負担も考慮して、2021年度の海外セーリング研修は中止としました。

3. 外国ジュニアヨットクラブとの交流親善事業

日本パラオ親善ヨットレース実行委員会との協力関係に基づき、パラオ共和国でのセーリングの普及のため、指導者の派遣やヨットレースの開催支援その他のサポート活動を検討しましたが、本年度は特に要請もなく活動は行われませんでした。

事業3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号)

1. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業

本年度は理事会もメール、書面での開催であったこと、6月26日開催の2021年度定時総会のみが実際の対面会議開催であったが出席者が連盟役員のみであったこと、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2010も開催中止となったことから、例年開催していた指導者研修会、安全講習会は開催出来ませんでした。

(2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度については、指導育成委員会より2023年4月1日付での制度廃止の提案があり、前期の概要の通り、更に委員会で議論を深めて年度内に結論

を出すこととなりました。従って、各クラブから新規公認申請の募集は行わないが、4年毎の更新認定を3名行いました。

- (3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業
本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

事業4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業

(定款第5条 第1項 第6号)

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ています。広報誌「ユースセーリング」の発行事業も本年度は2022年3月に、第90号を発行することが出来ました。

(会員、クラブの状況その他)

- (1) クラブの代表者である正会員は2022年（令和4年）3月31日現在23名、学識経験者である正会員は21名で正会員の合計は44名です。
- (2) 登録クラブ数は2022年（令和4年）3月31日現在23です。
サポーター会員登録者は2名です。
- (3) 特別会員は、アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社ライフサイエンス研究所の2企業です。
(2022年（令和4年）3月31日現在)
- (4) 連盟会長表彰
当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、2016年度（平成28年度）から発足しました。
2021年度（令和3年度）の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、2021年（令和3年）5月19日開催の2021年度（令和3年度）第一回理事会に諮り、陶山哲夫氏（小豆島オリーブ少年団 代表者）、阪田守昭氏（KMC横浜ジュニアヨットクラブ 代表者）に決定しました。
6月26日開催の2021年度定時総会終了後に表彰式（表彰状、記念品授与、記念写真撮影）を石原伸晃会長のご出席を頂き行いました。
尚、2020年度の会長表彰者に決定していたものの、新型コロナウイルス感染拡大状況から表彰式が行われなかった石川靖雄氏（茨城県セーリング連盟ジュニアヨットクラブ 代表者）についても表彰を行い、ご本人が欠席でしたので表彰の発表を行い、表彰状と記念品はお送りしました。

又、公益財団法人日本セーリング連盟の2021年度（令和3年度）定期表彰については、当連盟より推薦した濱本徹夫氏（B&G別府海洋クラブ 代表者）が優秀指導者賞を授与され、2022年（令和4年）1月29日（土）、新型コロナウイルス感染拡大状況からフルオンラインで開催された全国加盟団体代表者会議に於いて、出席者に対して受賞者の紹介と表彰状、副賞のお披露目という形式での表彰式が行われました。

以上